

多治見市文化財保護センター企画展

虎溪山永保寺

〽発掘と古文書が語る七百年〽



平成 25 年 1 月 21 日 (月) ~ 6 月 28 日 (金)

場所：多治見市文化財保護センター展示室

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26

Tel(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

URL <http://www.city.tajimi.gifu.jp/bunkazai/>

開館時間：午前 9 時～午後 5 時

休館日：土・日・祝日 入場無料

主催：多治見市教育委員会

協力：宗教法人永保寺

はじめに



国宝観音堂と永保寺庭園 平成 24 年撮影

鎌倉時代末期の正和 2 年 (1313)、夢窓疎石 (夢窓国師・1275 ~ 1351) が甲州から閑居の地をもとめ、法弟・元翁本元 (仏徳禪師) ら 7 ~ 8 人と共に美濃の長瀬山に入り庵をたて、「古谿」としてのが虎溪山永保寺の草創である。以後、永保寺は、臨済宗南禅寺派の寺院として多治見の地に歴史を刻み、平成 25 年 (2013) に開創から 700 年を迎える。

その永保寺で、平成 15 年 9 月 10 日に大規模な火災が発生し、本堂 (方丈)、庫裡、大玄関が全焼し、国宝開山堂・観音堂への類焼は免れたものの、本尊の釈迦如来坐像脇侍文殊菩薩 (市指定文化財) をはじめ、多くの歴史的資料が失われた。火災後の再建計画に伴い、多治見市文化財保護センターでは平成 16 年度に庫裡跡、19 年度に本堂・大玄関跡の発掘調査を実施した。また、歴史的資料が失われた教訓により、市教育委員会および図書館郷土資料室による文書調査が行われ、平成 19 年に中世文書 35 点・近世文書 292 点が市有形文化財に指定された。さらには、平成 21 ~ 24 年度に国宝開山堂・観音堂の 30 年に一度の保存修理工事が行われ、くしくも、火災後の歳月は、多方面で永保寺の文化財に対する調査研究が行われ、多くの成果が得られた期間でもあった。本展では、それらの成果をもとに永保寺 700 年の歴史をたどってみたい。

創建の頃の永保寺



国宝開山堂 平成 23 年撮影

『夢窓年譜』によれば、夢窓疎石は面識の無かった地主に許可を得て長瀬山に庵を結んだとされる。当時の地主は長瀬郷領主・源頼氏で、後に夢窓に帰依し長瀬入道沙弥道任と称した人物である。また一説では、すでにあった土岐氏の別業 (別荘) を禅院にしたともいわれ、永保寺創建には禅宗の保護を進めていた土岐氏の影響もあったとみられる。創建の翌年には、夢窓疎石によって「観音閣」(観音堂) が建立されたと伝わる。ただし、現在の観音堂は建築様式や年輪年代などの調査から、14 世紀末 ~ 15 世紀中頃に建立されたものといわれている。

鎌倉 ~ 室町時代の禅宗は幕府や朝廷など支配者層との結びつきを強めていくが、中でも夢窓疎石は門下三千余名ともいわれ、後醍醐天皇を始めとする歴代天皇や足利尊氏などから帰依を受けた高僧として名を残す。夢窓疎石によって開かれた永保寺も、時の権力者からの保護を受け力を強めていった。暦応 2 年 (1339) には光明天皇の勅願寺となり、同年、室町准后尊融 (後醍醐天皇の皇子皇女または孫との説がある) から美濃・南宮社領分の土地が寄進されている。また開山堂は、夢窓疎石死後の文和元年 (1352) に足利尊氏によって建立されたと伝えられる。しかし、近年の国立文化財機構 奈良文化財研究所の年輪年代調査によると、部材の伐採年代が 1335 年頃という結果が得られ、伝承より 20 年ほどさかのぼる元翁本元が遷化した正慶元年 (1332) に建立事業が始まったと推測されている。永徳

2 年 (1382) に足利義満から寺領安堵の御教書も出され、最盛期の永保寺領は、長瀬郷、野中村、大原郷、池田郷、高田郷、多治見郷、於奈田 (小名田) 郷、大針郷 (ここまで現多治見市)、南宮社領家室原郷 (現不破郡垂井町) など広範囲にわたっている。

夢窓疎石から永保寺を託された元翁本元もまた、後醍醐天皇皇子・世良親王から帰依の証として京都嵯峨の離宮 (後の臨川寺) が寄進されている。正慶元年 (1332) の元翁本元の遷化後、後醍醐天皇の命により臨川寺の開山が夢窓疎石になったのを受け、元翁本元が臨川寺から永保寺開山に改められる。以後、永保寺は開祖が夢窓国師 (夢窓疎石)、開山が仏徳禪師 (元翁本元) とされることとなった。



世良親王のもの
とされる古位牌



伝夢窓国師坐像
室町時代初め

発掘調査からみえる永保寺

火災後の再建に伴い、庫裡跡および本堂跡約750㎡の発掘調査が行われた。寺には、創建以来、度重なる火災や戦火に見舞われ、建物の再建が行われた記録が残されている。発掘調査では、中世から近代までの遺構や遺物が確認され、被災や再建の記録を裏付ける成果が得られた。



「正中二年十二月」銘山茶碗鉢
1325年 庫裡跡出土

中世 永保寺創建の正和2年(1313)～15世紀中頃の建物跡は確認

されなかったが、山茶碗、古瀬戸の天目茶碗や仏花瓶などの遺物が出土している。とくに庫裡跡から出土した「正中二年十二月」銘の山茶碗の鉢は、寺創建に近い年代の貴重な遺物であり、在地領主の一人が永保寺に奉納したものではないかと推測されている。また、古瀬戸の天目茶碗で二次的に熱を受けた痕跡のある破片が複数出土し、寛政4年(1792)の文書に「康正年中(1455～1457)諸堂伽藍炎焼之砌焼失仕候」と記された火災の痕跡とも考えられる。

建物遺構として最古のものは、本堂跡の最下位面から検出された小形の掘立柱建物で、出土遺物から15世紀末～16世紀初頭のものと思われる。さらにそのすぐ上からは16世紀初頭～中頃の礎石建物跡が検出され、この礎石には熱による変色がみられた。元禄8年(1695)に出された方丈(本堂)再建のための勸進帳(永保寺近世文書No.249)には、天文22年(1553)年に「方丈齊堂平重門尽ク灰燼ト作ンヌ」と大規模な火災のあったことが記され、礎石の変色はこの火災の記録を裏付けるものと捉えられる。元禄8年の勸進帳には、天文22年の火災後「百四十餘霜苔深ク草荒テ旧礎纔ニ存スル耳」と、140年間余り建物が再建されず、荒廃した様子が記されている。発掘調査によっても、庫裡跡・本堂跡ともにこの時期に建物の形跡は認められず、寺の衰退期とよばれる期間である。



「巨」の墨書のある天目茶碗底部 16世紀 本堂跡出土
永保寺が「巨景寺」「巨溪寺」などと記された頃の遺物

近世 荒廃した寺の復興がようやく進んだのが元禄8年(1695)頃とみられ、この年に方丈(本堂)復興のための勸進が行われている。その凡そ150年後、嘉永元年(1848)にも勸進が行われ、建て替えが行われたとみられる。発掘調査においても17世紀後半と19世紀中頃の建物跡が確認された。19世紀中頃の建物跡では、須弥壇直下に埋められた古銭(寛永通宝など)が出土した。また、大玄関跡からは、再建の際に埋納されたと思われる一字一石経が約1500個出土している。



中国製磁器染付皿 16世紀末頃 庫裡跡出土

近代 明治維新を迎え、新政府によって廃仏毀釈政策が実施され、永保寺も一時閉鎖を余儀なくされる。しかし、明治13年(1880)の明治天皇巡幸の際、永保寺を訪れた侍従の山岡鉄舟がその荒廃を嘆き、復興を指示、大仙寺(現加茂郡八百津町)の住持潭海玄昌が永保寺の師家として迎えられ、寺の再興に尽力したという。明治24年(1891)10月28日、濃尾大震災が発生し、永保寺では本堂・庫裡が倒壊した。発掘調査では、震災後の明治26・27年に再建された本堂・庫裡跡の遺構が検出された。本堂は、幕末のものに比べ1.5倍の面積に拡大し、礎石には深さ1m以上の大型縦穴に大量の円礫と赤土を充填して付き固めた強固な基礎工事が行われており、地震による倒壊を教訓にした再建が行われたことがわかる。本堂の礎石下からは埋納された「多字一石経」が約150個出土している。昭和6年(1931)には、開山六百年記念事業として本堂の修繕と庫裡・大玄関の建て替えが行われている。平成



多字一石経 明治時代 本堂跡出土



濃尾震災後に再建された本堂の基礎

15年に焼失したのはこのとき修繕と建て替えが行われた建物である。

発掘調査後に庫裡・本堂・大玄関ともに再建が行われ、現在、30年に1度の保存修理が終了してきれいになった国宝開山堂・観音堂とともに、新たな永保寺が姿をみせている。

修行の日々

永保寺は檀家を持たない修行寺という性格をもち、天保3年(1832)に雲水の修行の場である虎溪僧堂が開かれ、現在に至っている。昭和20年代後半に、多治見市内で写真店を営んでいた伊藤春濤氏によって、永保寺の雲水の修行の日々が撮影されている。



1



2



3



4



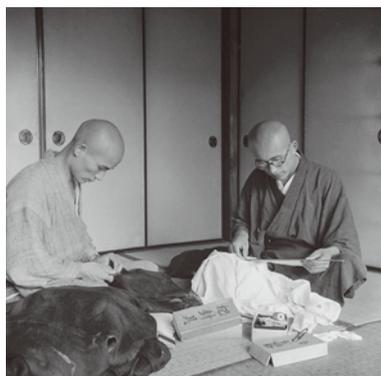
5



6



7



8



9

- 1 虎溪山を下りて托鉢に向かう。 2 新坐禅堂での剃髪。四九日(4と9の付く日)に行く。 3 本浴。
 4 毎夜9時以降に行われる夜坐。観音堂の前にて。 5 洗濯。 6 タクアン作り。毎年冬に行われる。
 7 典坐での餅つき準備。餅つきは毎年12月28日に行われる。 8 裁縫。 9 雪の日に、鐘楼前の掃除。

参考文献

- 桜井景雄 1986 『禅宗文化史の研究』 思文閣
 多治見市 1976/1980/1987 『多治見市史』 在地史料編・通史編上・通史編下
 多治見市図書館 2010 『虎溪山永保寺 近代文書目録』
 多治見市教育委員会 2007 『永保寺庫裡跡発掘調査報告書』 多治見市埋蔵文化財調査報告書第82号
 多治見市教育委員会 2008 『虎溪山永保寺 中世・近世文書目録』
 多治見市教育委員会 2011 『永保寺本堂跡発掘調査報告書』 多治見市埋蔵文化財調査報告書第88号
 淡交社 2003 『禅入門 わかりやすい禅&坐禅』
 『夢窓国師語録』(天龍寺開創六五〇年記念出版 1989 大本山天龍寺 天龍寺僧堂)
 児島大輔 2011 「年輪が語る国宝永保寺一年輪年代法による調査成果の紹介」(知られざる永保寺 Part2 国宝観音堂修理特別公開 講演会資料)

多治見市文化財保護センター企画展

「虎溪山永保寺 ～発掘と古文書が語る700年～」

2013年1月21日 発行

発行 多治見市教育委員会・文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26

電話 (0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

